

家族介護者に対する簡便な支援法 (PPOS 支援プログラム) :
アプリを用いた支援による介護負担の軽減に関する効果検証 (19-25)

主任研究者 荒井 由美子 国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部 部長

研究要旨

これまでに、家族介護者に対する現場における円滑な支援を企図し、家族介護者の短縮版 Zarit 介護負担尺度日本語版(J-ZBI_8) に対する回答状況に基づいて、もの忘れ外来看護師やケアマネジャー(以下、専門職)が行う簡便な介護者への支援法(A prompt and practical on-site support programme、以下、PPOS 支援プログラム)を開発した(Arai et al, 2018; 荒井, 2018)。前述の研究において、対象となった家族介護者の 90.0%が、PPOS 支援プログラムの継続を希望していたため、支援プログラム施行にあたっての専門職の負担を、より軽減させる必要があると考えた。そこで、本研究では、PPOS 支援プログラムを専門職が施行するにあたって J-ZBI_8 得点、の算出や支援項目の提示を可能とするアプリとして「介護負担軽減にむけたカウンセリングのためのガイドアプリ(仮)」(以下、アプリ)を開発し、実際の在宅介護の現場において専門職に、当該アプリを用いて PPOS 支援プログラムを家族介護者に対して実施してもらい、家族介護者における介護負担の軽減に関する効果を検証することを目的とする。本研究でのアプリ開発を通じて、専門職にとって家族介護者支援がより容易になり、当該 PPOS 支援プログラムの現場における汎用性が向上し、現場における家族介護者への迅速な支援に寄与でき、新オレンジプラン記載の介護者支援や、それに続く認知症施策推進大綱記載の「認知症の人の介護者の負担軽減の推進」の具現化にも資するものと期待できる。

主任研究者

荒井 由美子 国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部 部長

分担研究者

梶原 弘平 広島大学大学院 医系科学研究科 助教

A. 研究目的

本研究では、PPOS 支援プログラムを専門職が施行するにあたって J-ZBI_8 得点、の算出や支援項目の提示を可能とするアプリとして「介護負担軽減にむけたカウンセリングのためのガイドアプリ(仮)」（以下、アプリ)を開発し、実際の在宅介護の現場において専門職に、当該アプリを用いて PPOS 支援プログラムを家族介護者に対して実施してもらい、家族介護者における介護負担の軽減に関する効果を検証することを目的とする。

B. 研究方法

アプリアルファ版(以下、アルファ版)を作成し、模擬データを用いて現場における利便性等について検討する。

(倫理面への配慮)

研究を実施する際には、対象者に対して研究の趣旨を説明し、研究協力の受諾の自由、プライバシーの保護、得られたデータの研究目的以外での不使用、データ収集における拒否の自由、研究協力の同意撤回の自由を書面ないしは口頭にて説明する。対象者のデータは、匿名化し、対象者登録の際から識別番号に変換した上でデータを管理する。調査票、収集したデータおよび書類は、研究者の施錠できる棚で管理する。また、研究データは、研究開始から 5 年間は保存し、その後は、保存している全てのデータを消去する。同様に、調査票および書類で保存されているデータはシュレッダーでデータを粉砕して破棄する。

研究範囲が広範であるため、以下、分担研究ごとに、

A. 研究目的、B. 研究方法、C. 研究結果、D. 考察・結論
について報告する。

1. 家族介護者に対する簡便な支援の検討

(主任研究者：荒井 由美子)

A. 研究目的

PPOS 支援プログラムを専門職が施行するにあたって J-ZBI_8 得点の算出や支援項目の提示を可能とするアプリを開発することを目的とした。

B. 研究方法

アプリのアルファ版を作成し、模擬データを用いて現場における利便性等について検討した。また、アプリを用いた PPOS 支援プログラムの効果検証に係るアウトカム指標について、主任研究者と分担研究者で協議・検討を行った。

C. 研究結果

主任研究者の設計の下、システム開発企業と協議し、アルファ版を作成した。その後、協力施設において、アルファ版を使用した実証実験を行った。

D. 考察と結論

本研究を継続し、実用に耐えうるアプリを開発することは、家族介護者の希望である PPOS 支援プログラムを幅広く実施する基盤作りにつながることを期待される。

E. 健康危険情報

特記すべきことなし

【研究協力者】

小松亜弥音 (国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部)

水野 洋子 (国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部)

2. 家族介護者に対する簡便な支援法（PPOS 支援プログラム）の在宅における効果検証

（分担研究者：梶原 弘平）

A. 研究目的

在宅介護者への PPOS 支援プログラムの実施のための内容及び実現性の検討を目的とした。

B. 研究方法

在宅介護における家族介護者に対する簡便な支援法(PPOS 支援プログラム)を、老年医学の研究者、老年看護学を専門とする大学教員で内容を検討した。合わせて、介護者支援に関心のある介護施設を選定し、研究実現性の検討依頼を行った。

C. 研究結果

在宅介護者の家族介護者に対する簡便な支援法(PPOS 支援プログラム)の検討の実施を計画した。研究開始前に、家族介護者に対する簡便な支援法(PPOS 支援プログラム)の検討を、老年医学を専門とする研究者、老年看護学を専門とする大学教員で内容的妥当性の検討を行い、内容的妥当性及び研究の実現性を確認した。同時に研究対象者の検討を行い、サポートスキームの構築の具体的な介入方法の検討のために、研究対象者を先行研究において BPSD 等により要介護高齢者の介護者よりも介護負担がより大きいと指摘されている認知症高齢者の在宅介護者を対象とした。合わせて、在宅介護施設の担当者との協議を行い、研究対象者となる認知症高齢者の介護者への実現可能性の検討依頼を行った。

D. 考察と結論

本研究では、在宅介護者の中でも介護負担が大きいと報告されている認知症高齢者の在宅介護者を対象として、家族介護者に対する簡便な支援法(PPOS 支援プログラム)の検討と効果検証の実現可能性を研究者、各種専門職で検討を行った。その結果より、本研究の家族介護者に対する簡便な支援法(PPOS 支援プログラム)の内容的な妥当性と研究の臨床での実現可能性は専門職間での検討により、おおむね確認されたと考えた。

E. 健康危険情報

特記すべきことなし

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 荒井由美子. 認知症高齢者の家族介護：介護負担の把握と介護者支援の観点から. 精神科 2019 ; 34(4) : 400-405.
- 2) 荒井由美子. 認知症高齢者の自動車運転への対応：家族介護者を支えるマニュアルの活用を. へるすあつぷ 21 2019 ; 9 : 26-27.
- 3) 荒井由美子. 認知症高齢者の家族介護：不適切処遇と介護負担. 鳥羽研二, 監修、櫻井 孝・服部英幸・武田章敬・佐治直樹, 編. 認知症サポート医・認知症初期集中支援チームのための認知症診断実践テキスト. 東京：南江堂, (印刷中).
- 4) 荒井由美子, 水野洋子. 介護負担と介護者支援：介護者への情報提供を中心に. 中島健二・下濱 俊・富本秀和・三村 將, 新井哲明, 編. 認知症ハンドブック 第2版. 東京：医学書院, (印刷中).
- 5) 水野洋子, 荒井由美子. 認知症罹患高齢者の運転中止に関する総論的考察の試み. BIO Clinica 2019 ; 34(3) : 71-74.
- 6) Wahio M, Toyoshima Y, Miyabayashi I, Arai Y. Burden among family caregivers of the older people who need care in Japan. In: Washio M, Kiyohara C, editors. Health Issues and Care System for the Elderly. Singapore: Springer, 2019; 17-32.
- 7) Kajiwara K, Kako J, Miyashita M: A response to “Prevalence, Severity and Correlates of Symptoms of Anxiety and Depression at the Very End of Life”. Journal of Pain and Symptom Management, 58(3):e3.2019.
- 8) Kajiwara K, Kako J, Noto H, Oosono Y, Kobayashi M: Reply to “Barriers and facilitators of adherence to a perioperative physical activity intervention for older adults with cancer and their family caregivers”. Journal of Geriatric Oncology, doi: org/10.1016/j.jgo.2019.07.003. 2019.
- 9) Kajiwara K, Kako J, Miyashita M: Response to: “Caring for the person with cancer and the role of digital technology in supporting carers”. Supportive Care in Cancer. doi: 10.1007/s00520-019-04994-9, 2019.
- 10) Kajiwara K, Kako J, Noto H, Oosono Y, Kobayashi M: Letter to the editor: “Improving information to caregivers of cancer patients: the Herlev Hospital Empowerment of Relatives through More and Earlier information Supply (HERMES) randomized controlled trial”. Supportive Care in Cancer, 28(2):415-416, 2020.
- 11) Kajiwara K, Kako J, Noto H, Oosono Y, Kobayashi M: Reply to: “Informal

- caregiver quality of life in a palliative oncology population”. *Supportive Care in Cancer*. 27(12):4387-438. 2019.
- 12) Kajiwara K, Kako J, Noto H: Letter in response to:“Determinants of self- and carer-rated quality of life and caregiver burden in Alzheimer disease”. *International Journal of Geriatric Psychiatry*. 34(12):1916. 2019.
 - 13) Kajiwara K, Kako J, Noto H: “Mood, lifestyle and cardiovascular risk factors among older caregivers of patients with Alzheimer's disease dementia: a case-control study”: A letter in response. *Aging Clinical and Experimental Research*, 31(12):1847-1848, 2019.
 - 14) Kajiwara K, Kako J, Noto H, Oosono Y, Kobayashi M: Response to “Factors associated with long-term impact on informal caregivers during Alzheimer's disease dementia progression: 36-month results from GERAS”. *International Psychogeriatrics*. doi: 10.1017/S1041610219001042. 2019.
 - 15) Kajiwara K, Kako J, Noto H, Oosono Y, Kobayashi M: Response to the article "Informal caregivers in stroke: Life impact, support, and psychological well-being-A Swedish Stroke Register (Riksstroke) study". *Int J Stroke*. 14(9):NP1.2019.
 - 16) Kajiwara K, Kako J, Yamanaka M, Miyashita M: Determining caregiver burden using new technologies for informal caregivers of people with dementia: a systematic review. *Geriatr Gerontol Int*. 19:1069–1071. 2019.
 - 17) Kajiwara K, Kako J, Tatematsu N: Letter by Kajiwara et al Regarding Article, “Caregiver-Delivered Stroke Rehabilitation in Rural China: The RECOVER Randomized Controlled Trial”. *STROKE*. 50(11):e319. 2019.
 - 18) Kajiwara K, Kako J, Noto H, Oosono Y, Kobayashi M: Letter in response to “Impacts of a multicomponent intervention programme on neuropsychiatric symptoms in people with dementia and psychological health of caregivers: a feasibility pilot study”. *International Journal of Geriatric Psychiatry*. 35(1):138. 2020.
 - 19) Kajiwara K, Kako J, Noto H, Oosono Y, Kobayashi M: Reply to: “Breast cancer survivors' perspectives on a home-based physical activity intervention utilizing wearable technology”. *Supportive Care in Cancer*, 28(4):1541-1542, 2020.
 - 20) Kajiwara K, Kako J, Noto H, Oosono Y, Kobayashi M: The benefits of support groups for caregivers of patients with brain tumors. *Supportive Care in Cancer*. doi: 10.1007/s00520-019-05198-x. 2019.
 - 21) Kajiwara K, Kako J, Noto H, Oosono Y, Kobayashi M: The relationship

between the positive aspects of caring and emotional distress among caregivers of patients with advanced oncological illness. *Supportive Care in Cancer*. doi: 10.1007/s00520-020-05323-1. 2020.

- 22) Kajiwara K, Kako J, Noto H, Oosono Y, Kobayashi M: Caregiver burden and caregiving time among caregivers of patients with Alzheimer's disease. *Geriatr Gerontol Int*. 20(2):165-166. 2020.

2. 学会発表

- 1) 荒井由美子. 短縮版 Zarit 介護負担尺度日本語版 (J-ZBI_8)を用いたハイリスク介護者の迅速な同定と簡便な家族介護者支援の試み. 第34回日本老年精神医学会シンポジウム9 (高齢者の精神療法と心理社会的ケア), 2019年6月6-8日 (発表8日), 仙台市.
- 2) 荒井由美子. 当事者および家族支援: 家族介護者支援マニュアルの紹介. 第38回日本認知症学会学術集会シンポジウム16 (認知症と自動車運転—改正道路交通法施行後の実態と課題), 2019年11月8日, 東京.
- 3) 荒井由美子. 認知症高齢者の自動車運転を考える: ご本人と家族への支援. 第40回日本臨床薬理学会学術総会ランチョンセミナー, 2019年12月5日, 東京.
- 4) 水野洋子, 荒井由美子. 認知症高齢者に対する家族介護者の不適切処遇に係る副次的検討: 介護負担得点に基づく支援時に得られた家族の見解に着目して. 第34回日本老年精神医学会, 2019年6月6-8日 (発表8日), 仙台市.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得、2. 実用新案登録、3. その他
特記すべきことなし